

令和元年第3回北海道議会定例会 予算特別委員会〔総括質疑〕 開催状況

開催年月日 令和元年10月2日  
 質問者 日本共産党 真下 紀子 委員  
 答弁者 知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>二 原子力政策について</b>  <b>(一) 前環境大臣の問題発言について</b>  <b>(真下委員)</b>                      東京電力福島第一原発事故の後、高濃度放射性物質トリチウムを含んだ放射能汚染水がタンクにたまり続けている中での、9月10日の前環境大臣による「原発処理水を希釈して海に放出するしかない」との無責任発言というのはいけません。知事は、この際、前環境大臣の問題発言について、選挙応援を受けるほど親交の深い現大臣の小泉進次郎氏にですね、厳しく抗議すべきではありませんか。</p> <p><b>(真下委員)</b>                      今回の発言については対応していません。</p> <p><b>(三) 北電への対応について</b>  <b>(真下委員)</b>                      ちなみにですね、泊原発では、1988年から2018年まで合計で、気体で12兆ベクレル、液体で570兆ベクレルものトリチウムが大量放出されていることが初めて、明らかになりました。法の基準の範囲内とはいえ、周辺環境への影響が懸念されることは言うまでもありません。今後、北電に対して、気体放出量の公開も含め、適切な対応を求めるべきと考えますが、見解を伺います。</p>	<p><b>(知事)</b>                      処理水についてであります。原田前環境大臣の発言に関し、菅官房長官は記者会見において、「処理水の取扱いについては、経済産業省の小委員会において、風評被害など社会的な観点も含めた総合的な検討を行っており、現時点で処分方法を決定した事実はない」と述べたと承知をしております。</p> <p>道ではこれまでも、全国知事会を通じ、国に対して、「処理水の取扱いについては、環境や風評への影響などを十分議論の上、国民に丁寧に説明をしながら慎重に検討を進める」よう、要請をしてきたところであり、引き続き国の動向を注視するとともに、慎重な検討を求めています。</p> <p><b>(知事)</b>                      トリチウムについてであります。国では、トリチウムの液体及び気体の放出量に関し、各事業者から報告を求めるとともに、その濃度が原子炉等規制法で定められた基準の範囲内であることを確認をしております。</p> <p>道といたしましては、北電に対し、引き続き関係する法令や安全基準の遵守はもとより、安全性の確保に向けた不断の取組と情報の公開を求めています。</p>